

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立大宮高等学校）

目指す学校像	勉強と部活動等の両立の実践と自主自律の精神の涵養により、 高い志と強い使命感を持ったトップリーダーを育成する学校
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成する。 2 学力の向上を図り、生徒の第一志望の進路を実現する。 3 安心して通える学校づくりと積極的な情報公開により、県民の期待や信頼に応える。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策
1	大高生は真面目で素直であり、学習や部活動、学校行事等に熱心に取り組む、充実した高校生活を過ごしている。そして、将来日本をリードし国際社会に貢献できる人材を育成するため、人間性・創造性の伸長を目標としている。そのため、生徒一人一人に在り方生き方の探究を進めさせるとともに、主体性に基づく生徒の協働的問題解決力をより一層育成することが課題である。	①多様な価値観やモデルに触れて、自己の在り方生き方を探究する。 ②主体性を持って、他者と協働して問題解決にあたる姿勢を身に付けさせる。	ア 講演会や総合的な学習の時間を通して多様な価値観やモデルを提示し、改めて自己の在り方生き方を考えさせる。 イ 県事業「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」 ウ 大学セミナー、最先端研究施設・大学研究室訪問、課題研究等、理数科実施の多彩な取組を通して、科学技術立国日本を支えるトップリーダーを育成する。 エ 文化祭等の学校行事や部活動、国際交流活動等を通して、積極的に他者と協働して活動させる。 オ 県事業「未来を拓く『学び』プロジェクト」等を活用して校内で協調学習等のアクティブラーニングを推進するとともに、県事業「科学技術立国を支える次世代人材育成プロジェクト」等や「エンパワーメントプログラム」への参加を促す。	ア 生徒の提出物や生徒面談等を通して、達成したと評価できるか。 イ 各種事業合わせて延べ50名以上の生徒の参加希望があったか。 ウ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。 エ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。 オ 各種事業合わせて延べ50名以上の生徒の参加希望があったか。	A A	卒業生の協力を仰ぎ、多様な価値観やモデルを提示し、自己の在り方生き方を考えさせる。 県主催の事業や本校独自の事業を通して社会のトップリーダーを目指す生徒の育成を続ける。 理数科を中心とした普通科を含めた特色ある理科・数学教育及び文系志望者にも対応した実践を続ける。 学校行事や部活動を生徒主体で引き続き実施する。また、国際交流活動(派遣)等を通して、積極的に他者と協働して活動を続ける。 県主催の事業や、本校独自で実施する事業への参加を引き続き促し、生徒の変容を図る。
2	本校はこれまで大学進学実績等で県民の期待に応えてきた。高大接続改革等国の動向や学校関係者評価の指摘を踏まえ、学力向上の取組をより一層充実させ、教科指導では主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。また、課題である批判的・論理的表現力の育成を更に推進する。これまで本校が取り組んできた進路指導は、学校関係者評価においても県民からも高評価を得ている。更なる進路希望の実現を目指し取組を続ける。	①授業改善及び「批判的・論理的表現力」の育成を一層推進する。 ②系統的な指導と個に応じた指導をバランスよく行う。	ア 引き続き教員相互の授業見学等教科指導力の向上に努めるとともに、各種研究会に参加して最新の高大接続改革の動向や指導技術等を教科指導に反映させる。 イ 授業にアクティブラーニングを積極的に導入し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ウ 総合的な学習の時間を利用した「批判的・論理的表現力」を高めるプログラムの開発・実施を引き続き行う。 エ 3年間の計画に基づき、生徒の状況を踏まえ、進路講話や講習等を実施する。 オ 生徒理解に基づき、生徒の実情に即した面談・個別指導を丁寧に行う。	ア 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。 イ 主体的・対話的で深い学びについて各教員が自己評価シートに記載し、達成度b以上が90%を超えたか。 ウ 生徒の提出物や生徒面談等とおして、達成したと評価できるか。 エオ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。	B A	様々な機会を活用し教科指導力及び進路指導力の向上を引き続き目指す。また、その方策として、主体的・対話的で深い学びを導入する。総合的な学習の時間・総合的な探究の時間を利用した「批判的・論理的表現力」を高めるプログラムの開発・実施を引き続き行う。 進路講話や講習等を計画的に実施する。また、生徒理解に基づく、面談・個別指導を丁寧に行う。
3	学校生活での安心・安全(生徒の心身の健康、緊急時の対応、施設・設備の整備・改修、生徒指導、各種安全・事故防止指導等)について、引き続き取り組む。情報公開については、学校説明会、校外での説明会等及びHPでの発信を主な手段とし、大高生の学校生活があらひのまま伝わるよう、また、本校の求める生徒像が伝わるように努める。	①大高で充実した生活を送れるよう、きめの細かい指導を行う。 ②様々な機会を利用して本校を紹介し、生徒募集に努める。	ア 年6回の担任面談を行う。 イ 新入生に対し「オリエンテーションキャンプ」を実施し、大高生活への円滑な移行を図る。 ウ 学校独自のスクールカウンセラーを依頼する等、生徒の心身の健康に配慮する。 エ 学校説明会等や校外での説明の機会を積極的に活用して、生徒募集に積極的に取り組む。 オ 本校HPを活用して、学習、行事、部活動等平常の教育活動を紹介する。	ア 予定通り実施したか。 イ 生徒アンケートで、肯定的回答が80%を超えたか。 ウ 生徒面談等とおして、達成したと評価できるか。 エオ 参加者数、参加回数、HPの更新回数、保護者アンケート、募集倍率等を踏まえて、達成したと評価できるか。	B A	新入生には、オリエンテーションキャンプを実施する。また、定期的な担任との定期的面談を5回実施。より多くの面談が必要な生徒と担任が判断した場合は、必要に応じて面談を実施し、生徒の状況を把握してきめ細やかな指導を行った。 学校が独自に依頼したスクールカウンセラー(SC)と生徒の面談の場を設定し、学校生活が円滑に行えるよう支援した。 普通科・理数科の学校説明会や外部教育機関を利用した校外の説明会を引き続き実施する。 本校HPを活用して、学習、行事、部活動等平常の教育活動の紹介を引き続き実施する

実施日	平成31年2月23日
学校関係者からの意見・要望・評価等	この学校自己評価システムシートの表記について、「目指すもの⇒成果⇒課題」や改善策を簡潔に記載するとよい。また、保護者アンケートを評価指標としているが、一部の保護者のアンケートとなっているので、より多くの保護者の意見や生徒の意見を評価に反映させる工夫をしてほしい。 卒業生の話は、年齢も近く、同じ体験をしている人の話であり、刺激になるので続けてほしい。 県主催の事業への参加は一部の生徒に限られる。課題を少人数のグループと与え、短時間ディスカッションし、代表者が発表して質疑に応じるような取組を全員にさせてほしい。 大高生は、表現する力が弱い人が多いと感じる。主体的に発表する機会が増えるのはよい。 大高生は、指示されたことはできる。ぜひ、新しいことにチャレンジする意識・気概を持たせてほしい。 生徒に考えさせ問いつめ、生徒が参加している授業(アクティブラーニング)は短時間であるがしっかりと取り組んでいると思う。さらに、授業の中で、短めの文でまとめ、論理的に書く訓練をお願いしたい。 アクティブラーニングと授業の進捗は相反するが、やはり生徒の言葉を守り授業は、生徒も楽しそうである。そのような実践から、楽しそうに活き活き学んでいるような、生徒の変化を感じる。 授業では、プロジェクトが有効活用されている。先生方も準備が大変だとは思ってほしい。 4階の教室は下級生が使いたい。下級生にも進路情報がいさわたる工夫をしてほしい。 大高の取組で一般的な大学の入試対応は大丈夫だと感じている。難関国立大はもちろん、推薦入試対策及び難関私大対策もお願いしたい。 校舎は古いが生徒はよく頑張っていると感じる。 生活状況調査から、時間マネジメントのトレーニングの必要性を感じる。 学校独自のSCがいるのはよい。もっとニーズあると考えると、SCの数を増やすべきではないか。また、SCを利用することは、特別なことではないという雰囲気づくりをするとうい。 生徒募集については、大高保護者等生徒関係者を活用し、大高のよさを認知してもらおう活動にもっと力を入れるとよい。

